

# 「イクケン香川」子育てでカレッジ

## 発達が気になる子ども支援学科 Kコース



県内で子育て支援に携わる50名が参加。

日時 ● 2月15日(水) 10:00~12:00

会場 ● サンメッセ香川

10:00~10:10 開会あいさつ

10:10~11:25 講演会

発達ที่気になる子どもを持つ家庭を子育て支援現場で支える課題と視点

四国学院大学 野崎晃広教授

11:30~12:00 ディスカッション・まとめ

### 【講演会】発達ที่気になる子どもを持つ家庭を子育て支援現場で支える課題と視点

四国学院大学 社会福祉学部 野崎 晃広 教授

#### 障害・発達の気になる子どもの支援の動向

近年、入所ではなく家庭で暮らしながら通所する支援の形に変化してきました。県内各地に通所施設が増えている。障害児支援は、障害のある子どもの支援であるが、2014年に「家族支援」がようやく重視されるようになった。

#### 家庭・親は支援を活用することに葛藤がある

我が子に障害があることを知られたくない気持ちや認めたくない気持ちがあり、専門職とつながりにくい。家庭の孤立を防ぐために、子どもの未来を一緒に考える場や機会を作ることが必要。

#### ベターな暮らしではなく、その子どもにとってベストの未来を！

親が子どもの可能性を排除せず、我が子の成育歴を記録して専門職者に伝えられるようにすること、公的支援とインフォーマル支援を組み合わせながら育てていくことをしてほしい。

#### 子育て支援現場では子どもを育てる親の支援

特別なニーズを持つ親を理解しているかどうかではなく、「理解しようとする姿勢」が大切。わが子の未来が想像できないからこそ不安に思っている親に寄り添うのも支援のひとつ。



### 全国から見た 香川のペアレントメンター活動

全国各地のペアレントメンターの運営形態例

- ・行政主導
- ・障害福祉団体への委託
- ・発達障害者支援センターが運営
- ・複数の親の会が運営協議体をつくり運営
- ・NPO法人に委託

1. 全国で唯一、NPO法人がペアレントメンター活動を担う地域
2. 「かがわ方式」と称して発達障害に限定しないペアレントメンター活動を展開(法人ミッション)

#### NPO 法人ペアレントメンターかがわの紹介

ペアレントメンターとは、発達障害や発達の気になる子どもを育てる保護者が、自らの子育てで経験を生かして、共感的視点で話を聴いたり、相談に応じたりする立場の親です。親の会は数あるけれど、発達障害に限定せずに発達の気になる子どもを育てる親にも対象を広げているのが香川の特徴です。2012年善通寺市で発足し、NPO法人として活動しています。違いを排除せずに同じ親の立場で語り合う「ペアメン Cafe」、個別相談などを県内各所で行っています。

## 【ディスカッション】 子育て支援現場の支援者として、できることは？



グループに分かれて、テーマに沿って討議が行われました。

【ディスカッションテーマ】

- 子育て支援現場の支援者として、できることは何か？
- 発達が気になる子どもを持つ親と、何を大切に関係を深めるのか？

### 参加者アンケートより（抜粋）

- 子育て支援のスタッフができることとして、専門機関につなげるのが頭にあったが、そうではなく、その親がその子にどのように育ててほしいのか、どういう将来になってほしいのかを考えていけるように導き出していくことが必要だというのが、ものすごく印象的でした。(30代女性)
- 自分に中にある差別意識を、まず認めることが大切という話は、本当にそうだと思い印象に残りました。どんな親・家庭でもそれを支えるのが子育て支援者の役割ということを意識において、仕事に取り組んでいきたいと思えます。(40代女性)
- 個性が大事といいながら、集団になじめない人をダメだとする。認識や意識の改革が必要であると感じました。
- もっともっと自分の気持ちを素直に、遠慮なく活かせる場をつくりたいです。どんな子どもキラキラと輝く未来をつくれたらいいなと思います。(30代女性)
- 子育て支援センターのスタッフとしての姿勢、当事者の方から学ぶという意識の大切さを改めて学ぶことができました。寄り添うことの大切さを感じ、日々の業務に活かしていきたいと思えます。(30代女性)
- スタッフとしてわからないことも多いですが、「わからなくても、相手は人、わかろうとする姿勢が大切、その気持ちは伝わる」というメッセージがとても印象的でした。通常の発達と少し違う子だと、こちらも身構えがちですが、まずはその意識を変えていきたいと思えました。(30代女性)
- 子育て支援スタッフとしても、発達障害の子どもを持つ親としても、とてもためになるお話しでした。スタッフとしてはひろばで何が出来るか、どう寄り添えるか、ひろばに来たいと思えるか、を考えることが大切だと感じました。私は、当事者である子どもを持つ親としても、スタッフとしても両方の視点から考えられることを活かしていきたいと思えます。(30代女性)
- 学童の指導員をしています。学童に発達障害を持つ兄弟がいます。トラブルを何度か起こしたこともあり、母親も苦しんで私たちに言葉少なく話してくれることがありました。いよいよ行き詰まったとき、「同じ悩みを持つ親の会に参加したらどうでしょうか？」と言いましたが、なかなか一歩を踏み出せずにいる様子です。父親より母親の方が難しいようです。先生の講義で学んだ、親と同じ立場で寄り添って話を聞くことを、これからも努力したいです。(50代女性)
- 発達障害の子どもではないのですが、できていない子に対し、「親が悪い、親ができていない…、だからこの子が…」と思ったことが多々ありました。そういった親を理解せねばと実感し、これから努力します。＜親の支援、大事＞(60代男性)
- ディスカッションの時間もとても有効だった。先生のお話をもっと聴ける機会が欲しい。(40代女性)
- 20年～30年前にリハセンターが主に子どもたちを受け入れてくれていた。保護者と共に私も通ってきたが、今、子育てひろばの中で、子どもを育てる親の話をじっくり聞いているか。どう介入していったらいいか。スタッフ共に話し合っていきたい。“サポートファイルかけはし”は私も保育士として折角作成したのに親の気持ちはどうだったか？ 思いおこされる講演でした。ありがとうございました。(60代女性)